

## 1 学校教育目標

○深く考え、自ら学ぶ人  
 ○自他を尊重する心豊かな人  
 ○心身ともにたくましい人  
 人権尊重を基調として、社会の変化に対応した知・徳・体の調和のとれた人間性の育成を目指して、全教育課程において、「夢・挑戦・自立」をキーワードとした教育活動を展開する

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	将来への夢や目標をもち、自立し社会に貢献できる人材を育む学校 ○ 一人一人を大切にし、互いの良さを認め合い、個の能力を伸長できる学校 ○ あらゆる場面・機会をとらえ、心と体を磨き鍛え、豊かな人間性を育む学校 ○ 地域・保護者・学校、三位一体の総合力で生徒の育成を図る学校
○児童・生徒像	夢や目標をもち、自分で考え、判断・表現・行動し、課題解決できる生徒 ○ 基礎的・基本的な知識・技能と主体的に学習に取り組む態度を身につけた生徒 ○ 友情や思いやりの心を育て、自他を尊重する心豊かな生徒 ○ 行事や部活動・奉仕活動に積極的に取り組み、地域に感謝・貢献できる生徒
○教師像	主体的かつ的確な判断ができ、組織として迅速に動くことができる教職員 ○ 危機管理とサービスの徹底・厳守を常に意識できる教職員集団 ○ 新学習指導要領を踏まえ積極的・意欲的に研修や授業改善に取り組み、自ら学ぶ姿勢で知識・視野を広げ、専門性を高める教職員 ○ 人間性豊かで、教員としての基礎基本を身につけた教員

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

・全校生徒が落ち着いた生活を送ることができている。教員の熱意ある指導により学習指導、生活指導、生徒会、部活動など充実した学校生活が営まれている。

・全教員が統一した学びのスタイルを意識した授業改善に取り組み、少しずつ定着してきている。区学力調査では、各教科学校全体の通過率はやや上昇したものの、60%に満たない学年の教科も多数あり、正答率も学年が上がるにつれて下がっている。

・近隣特別支援学校との交流、近隣小学校との連携・交流、地域町会自治会行事へのボランティア活動に多くの生徒が参加した。さらなる充実を図る。

・不登校生徒や特別支援の必要な生徒が多い。関係機関との連携を図り、一人一人の生徒に応じた対応を組織的に考えていく。教育相談体制の充実を図るとともに教員の教育相談技術の向上を目指す。また発達障害等のある生徒について、ケース会議を開き、共通理解、共通行動、個別の支援を行っていく。

・行事への保護者参加は増加している。しかし、授業参観・学校公開・保護者会への参加はまだ十分とは言えない。魅力ある取組について今後も考え、工夫していく必要がある。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	◎	◎	◎	◎	◎
3	小中連携	○	○	○	○	○

## 5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
統一した学びのスタイルが定着してきているが、形だけでなく、自力思考や自力解決が円滑にできるよう発問、方法や形態の工夫、ICTの活用等改善を図る。国語、数学、英語の3科を中心に中間層の学力を伸ばす。家庭学習の習慣化に向けた取組を実践する。		国語・数学・英語とも各55% ※国語は現状維持、数学3.3、英語1.2ポイントアップする。 年度末定着度確認問題の国数英の正答率60% 11月生徒意識調査で「授業がわかる」90% 統一した学びのスタイル関連項目達成95% 令和3年度区調査全教科の通過率50%		全体では国語 62.8%、英語 57.0%は55%を上回ったが、数学 54.4%で55%を達成できなかった。特に2年生の数学と英語の通過率は39%と目標より16%も下回った。		統一した学びのスタイルによる授業は5教科ではほぼ実践できているが、実技教科や転入の教員においては十分とは言えない。タブレット等のICT機器やホワイトボードの活用、グループワークや話し合い、発表など生徒が主体的に学習に取り組める活動を意欲的に取り入れているが、まだ教員による差がある。家庭学習ノートの活用により毎日の提出はできるようになった今後は個々の学習内容についての指導が課題である。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	家庭学習 の習慣化	全教科	毎日	家庭学習ノートと連絡帳を兼ねた冊子を作成し、毎日提出させる。	毎日の提出	提出率100%	提出率97.2%	ほぼ全員が毎日提出できてきたが、学習内容の充実が課題	○

2 継続改善	授業改善	全教科	授業観察 日常と自己申告前後	管理職・教科指導専門員が日常の授業観察と観察後の指導・助言、自己申告面接、研究授業・研究協議を通して、授業改善を図る。	授業観察と自己申告面接 生徒意識調査	授業がわかる 90% 学びのスタイル 関連項目 90%	授業が分かるよう発問や板書が工夫されている 83% 学びのスタイル関連項目 85%	中堅教員を中心に改善が進み、若手やベテラン教員にも反映されつつあるが、めあてや振り返り、評価の方法が今後の課題である。	○
3 新規	I C T 機器を活用した授業改善	全教科	授業観察 日常と自己申告前後	日常の授業や校外の研究授業で、I C T 機器を有効活用した授業について情報共有や研修を図り、実践する。	授業観察と自己申告面接 生徒意識調査	授業で I C T 機器が活用されている 80%	授業で I C T 機器が活用されている 70%	5教科における活用は85%だが、実技教科53%で、実技教科での活用と生徒の活用が課題である	△
4 継続改善	放課後補充教室	国数英の3科中心 時期によって理社	水曜を除く毎日	教科担当+学年教員 つまずいた箇所を個別に演習する。既習内容の復習をし、基礎学力の向上を図る。	年度末確認問題（3月）	年度末確認問題（3月）の国数英の正答率 60%	1年の正答率は国語 数学 56.3% 英語 63.6%、2年の正答率は国語 55.0% 数学 44.8% 英語 51.8% 1年の英語以外は目標を下回った。特に2年の数学は50%下回り達しなかった。	前期は家庭学習ノート定着のための取組を行った。後期より英数を中心につまずき箇所の補充を実施した。コロナ対策や年間計画見直しにより、実施できない日もあった。年間を通して計画的に実施していく。3月の授業、放課後補充教室、春休みの課題で弱点の克服、未定着部の定着を図る。	△

<b>重点的な取組事項－2</b>		豊かな心の育成			
<b>A</b>	<b>今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>

自尊感情を育む	「自分にはよいところがある」70%	9月は72%だったが、12月の調査では81%とアップした	コロナ禍で行事の中止になる中、学年や生徒会での取組により生徒の活躍の場ができたことで自己有用感や自尊感情が育まれた。	○
---------	-------------------	------------------------------	--	---

### B 目標実現に向けた取組

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権尊重教育の推進	校内意識調査「友達や他の人のよさを見つけ、大切にしている」80%	道徳推進教師を中心とした全校体制による道徳教育の充実 全教育活動を通して互いを尊重し合う好ましい人間関係を築く	12月に意識調査では「友達や他の人のよさを見つけ、大切にしている」の割合は99%と非常に高く、ほぼ全員がそう思っている	コロナによる差別や偏見が心配されたが、道徳の授業や学活の時間を使い指導を行うことで友達を大切にし良好な人間関係が築けた。	◎
キャリア教育の推進	区意識調査「夢や目標をもっている」80%	職業教育や体験活動を通して夢をもち将来を考え自立できる力を育成する系統的な指導 自治活動の中で自分の役割を果たすことで主体的な体験活動の充実を図る。	職場訪問や職場体験、宿泊行事の体験活動は実施できなかったが、生徒会や委員会を中心に様々な取組が実施され、自治活動が活発化した。 12月の意識調査では「夢や目標をもっている」の割合は75%だった	職業の調べ学習で終わったことやコロナのこともあり、将来への不安や迷いが見られた。 次年度以降やり方やアプローチを変えた計画を立て実践する	△
教育相談の充実	校内意識調査「悩みを相談しやすい」80%	相談室、はばたきルーム、特別支援教室の整備 教育相談・特別支援教育に関する研修 ケース会議の開催	意識調査の結果は全体で54%と昨年度より10%低くなった。 特別支援教室が開設され年間指導計画に基づき週に1～2時間取り出し授業が行われた。 ケース会議は時数確保のため回数を減らし2回の実施となった。	定期的な相談の機会を増やすと共に、日常的に相談しやすい環境を作る。SC、SSWと連携し、特別に支援の必要な生徒や保護者と相談活動や関係機関との連携が図れた。	△

### 重点的な取組事項－3

小中連携

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
------------	------	------	---------	-----

学びの連続を意識した教育活動の推進	教員による研修会 1 回実施	研修会は実施できなかった。	管理職間での交流。情報交換にとどまった。年度末に次年度の計画と日程調整を行う	●	
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
研究授業公開	授業公開	授業改善推進校として、生徒が主体的に学習に取り組む研究授業の公開	1月20日に公開授業を実施し、小学校の先生方に授業を参観してもらった。	教員間で相互に授業観察を行ったり、指導案検討や情報共有したりできなかった。	△
教員の交流	教育課題研修 1 回	共通の教育課題についての研修会	特別支援教育に関する講演会を予定していたが、実施できなかった。	次年度に向け、実施できるように管理職・主任間で連絡調整していく。	●
生徒・児童の交流	交流事業	児童への学校紹介のビデオ作成と配信、	生徒会役員が中心となって、部活動紹介の動画を撮影し、関係小学校に配信した。	初めての試みのため、動画の内容の充実を務める。コロナ禍出の交流方法について提案し実践を継続していく。	△

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 重点的な取組事項－1 学力向上

- ・区学力調査の通過率は学校全体では国語 62.8%、英語 57.0%は目標の 55%を上回ったが、数学 54.4%で目標を達成できなかった。特に2年生の数学と英語の通過率は39%と目標より16%も下回った。正答率でも2, 3年の数学が50%前後、2年の英語が52%と低い結果となった。区調査を活用して、前学年・現学年の定着度を組織的・計画的に確認し、授業改善・放課後補充で、未定着部分の定着を図る PDCA サイクルを構築し、次年度も引き続き実践する。
- ・今年度から家庭学習ノートを活用した家庭学習定着のための取組を実施した。学習内容は、その日の授業の振り返り、復習を家であることを主眼とし、開始時に学習方法やの取組方を指導したが、慣れるまでには時間がかかった。家庭学習の夏休み明け位からは全体の提出率は90%近くになった。しかし取組内容には個人差があり、今後も継続して指導が必要である。年度当初の家庭学習の習慣化にはまだ時間を要するが、少しずつ定着しつつある。放課後も家庭学習の取り組み方に時間を割いたこととコロナ対策で再開後しばらくは職員の夕会を実施したため、放課後補充の開始時期が大幅に遅れた。区調査の結果から数学と英語を中心につまずきの大きい生徒への補充を実施したが、例年よりも十分な取組ができなかった。
- ・授業改善推進校として、授業研究4回と新学習指導要領実施に向けた指導と評価の一体化に関する研修会1回を実施した。タブレットなどのICT機

器やホワイトボードの活用、興味関心を高める課題設定、効果的なグループ活動の工夫などの視点から、各教科で生徒が主体的に学習に取り組める授業研究を行ってきた。授業の振り返りを通して、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成し、家庭学習に繋げるため、振り返りシートの活用など試行錯誤しながら、振り返りの時間と仕方の工夫が課題である。統一した学びのスタイル（めあて・まとめを明確に、話し合い活動、発表する機会を取り入れた）で授業改善を図るよう指導し 60～70%定着してきた。管理職による授業観察を週1回程度実施し、機会を捉えて指導を行った。国語と数学は月2回、英語は週2回、教科指導専門員による授業観察・指導を実施した。

#### 重点的な取組事項－2 豊かな心の育成

- ・ケース会議を年間3回実施し、各学年の特別支援の必要な生徒への対応に役立てた。次年度も継続していく。
- ・不登校生徒に対して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携を図りながら家庭訪問、面談を繰り返し、粘り強く関わった。その結果、関係機関と繋げられるケースも増えた。
- ・学校行事や宿泊行事での体験活動や職場体験、地域行事へのボランティア活動などが中止となる中、生徒会役員を中心に様々な企画やボランティア活動が主体的に計画・運営され、委員会や多くの生徒がそれに参加、協力し学校内での自治活動を通して、自己有用感や己肯定感が育まれた。体験的活動として、校外学習の実施を計画している。

#### 重点的な取組事項－3 小中連携

- ・小中連携の授業研究は、実施できなかった。1月に授業公開を行い、小学校の教員に参加を促した。特別支援教育に関する講演会を予定していたが実施できなかった。教科別分科会による情報交換・情報共有を2月に実施予定。次年度以降は、生徒数確保も含め、教職員だけでなく、児童・生徒間での交流機会を多くもち、日常的に意見交換や教科指導の相談ができる関係の構築を目指したい。
- ・部活動体験や連合陸上指導、補充教室の手伝い等は実施できなかったが、生徒会で作成した部活動紹介の動画配信を通して、交流、繋がりを図った。今後も生徒会を中心に様々な交流活動を工夫し提案していきたい。

#### (2) 保護者や地域へのメッセージ

花畑北中学校は「夢・挑戦・自立」をキーワードに、地域・保護者・学校の三者で力を合わせて、将来に夢をもち、それに向かい何事にも挑戦・努力し、自立できる生徒の育成を目指します。少人数だからこそできる一人一人に目の行き届いた指導、生徒に寄り添い一人一人を大切にすることを推進しています。全5学級という規模で、広い校庭、熱心な教員が丁寧に生徒の指導に当たっている面倒見のよい学校です。これからも本校に温かいご支援とご協力をお願いします。

#### (3) その他（学校教育活動全般について）

- ・一人ひとりの生徒に寄り添った、粘り強い教育活動に取り組むことができた。若手教員と中堅教員がチームワークとフットワーク良く教育活動に取り組み、授業改善推進校として、新学習指導要領に沿った授業改善に務め、桜花小学校と連携した統一した学び簿スタイルの授業を実践しています。授業力向上、生徒の学力向上に向けて、継続した指導の工夫、補充学習の充実が必要である。
- ・学年が進行するほど不登校生徒が多くなる。未然防止のため、休み始めの初期段階で原因を究明し対応していく。担任やスクールカウンセラー等による面談、家庭訪問を行い、関係機関とも連携を図っている。はばたきルームでの個別学習対応から教室復帰をめざしているが、学校復帰は厳しい生徒が多い。卒業後についても生徒、家庭と連携し様々な選択肢の進路を紹介し指導にあたっている。
- ・学校行事や宿泊行事での体験活動、生徒会活動や部活動など様々な場面で生徒一人ひとりが活躍できる場をできるだけ多く設定する。地域との関わりをもたせるボランティア活動の推進などさらなる充実を図り、生徒の自己有用感や自尊感情を高めていきたい。
- ・将来への夢や目標をもち、人の役に立ちたいと考えている生徒が増えているので、将来を見通した人生設計ができるようキャリア教育を推進し、自分の目標に向かって努力、挑戦していく過程で、自分の良さや力を発見し活かせるような機会や場を設けていく。

